

2024 年度 入学試験問題

国 語

(帰国生入試)

[注意]

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 解答用紙は、問題冊子の中にはさんであります。試験開始の合図があったら、解答用紙を取り出して受験番号と氏名を記入し、QRコードシールをはりなさい。
3. 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は自由に使って構いません。
5. 試験終了後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

東京都市大学附属中学校

【注意】国語の問題では、字数制限のあるものは、特別な指示がない限り句読点等も一字に数えます。

1 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

村の教育は大きくはふたつありました。ひとつが親分教育であり、もうひとつは村人全体への教育です。

親分教育は将来に親分となるであろう人に対する教育です。 X 教育のことです。村もひとつの自立した社会組織ですから、つねにすぐれた X を保持するように努力をしています。放つておいても自然に X が生まれるわけではありません。 X は全体状況が読めたうえで、ある望ましい決断のできる必要があります。この親分教育は将来に親分となるであろう家柄がありますから、その家の教育としてなされる側面があります。

他方、村の教育として、村人の若者に対する相互教育がありました。それは礼儀作法などの人とのつき合い方や、農山漁業のための知識や技術などです。 ① これらをきちんとマスターしておかないと生きていくことが困難になります。

ここではこの教育を支えている哲学といえはよいでしょうか、基本的な考え方を紹介して、現在のわたしたちの学校教育との大きな違いについて考えてみたいと思います。

その基本的な考え方は「平凡教育」というものです。この話は理屈くさくて、やや堅くなりがちなので、わたしたちになじみのあるテレビアニメの『サザエさん』を使って説明をすることにしましょう。

わたしは『サザエさん』の中で、カツオにもっとも注目をしています。『サザエさん』は五〇年以上の歴史をもっていますが、登場人物のキャラクターにはそれほどの変化はありません。ただその中で、 ② カツオだけがキャラクターを変えています。当初のころのいたずらっ子から、平凡教育論の担い手へと大きく変わっていくのです。

「平凡教育」というのは柳田國男が使った用語です。柳田はつぎのような言い方をしています。教育には平凡教育と非凡教育がある、そして平凡教育とは、その地域社会で自分たちが共に生きていくための知恵であると。それに対し、非凡教育は他の人よりも自分を卓越させるための教育です。

人びとは平穩に生きていくために、平凡教育をきちんと身につけていなければなりません。た。農業や漁業などの生業技術、共同労働や寄り合いなどでの組織のもち方、目上の人・目下の人・異性とのつきあい方、また神仏への対応の仕方など、多様な知識が必要でした。

それは全員が身につけなければならない知恵であり、とくに抜きんでて平凡教育を身につけることは要求されませんでした。ただ逆に、それを十分にマスターしていないと揶揄されるといふかたちでマスターすることを促され、若い娘などは、年上の娘たちの間での異性とのとんでもない失敗談やその悲劇に近い結末への揶揄の話に Y を傾け、自分はそうであってはならない

と胸に誓ったりしたものでした。このように柳田は指摘しているのです。

他方の非凡教育は仲間のうちで順序をつける教育です。近代に入って発達した学校教育は基本的には非凡教育のほうに重点がおかれています。科目ごとに成績というかたちで評価をしています。

現在の親はこの非凡教育の虜になっていくケースが少なくありません。他人との比較に目がいきます。極端な場合は、自分の子どもに「友だちの〇〇ちゃんに負けてはダメよ」というような鼓舞のしかたをします。

もちろん非凡教育には近代社会と適合したよい面があります。リーダーとして自分の意見をもって行動するためには非凡教育が必要です。けれども現代社会の問題点は、非凡教育には不可避である他人との比較という評価に比重がおかれすぎていることです。比較をする際にはある基準をつくってそれをもとにせざるを得ません。

ただ、問題なのはその特定の基準がある人に対する全面的な評価になってしまいうことです。この問題点を解決するには、平凡教育をもっと活かすしかないように思います。

サザエさんのマンガやアニメで「カツオはよい子だ」と思った人たちは、非凡教育的な価値観から少し距離をおいている人であるように思われます。カツオの学校の成績は家庭科や体育を除けばあわれなものです。それでは人は ^③カツオの何を評価しているのでしょうか。

カツオは果敢に、この平凡教育の大切さを主張しつづけています。たとえば、テレビアニメの一話で、運動会のとときにワカメが、かけっこはビリになるから好きではないと、非凡教育的な発言をします。それに対してカツオが順位なんか気にすることはない、後で紅白まんじゅうがもらえるから、そっちのほうがいいじゃないかと反論するのです。

もうひとつ例を出しましょう。

サザエさんの家の隣には、伊佐坂難物という小説家が住んでいます。サザエさん一家が百貨店の屋上で子ども向けの「赤ずきんちゃん」ショーを見えています。じつは、その出し物の狼のぬいぐるみの中に入っているのは、難物氏の息子である甚六君なのです。この甚六君は大学受験を目指している浪人生で、勉強に忙しいはずの浪人生がアルバイトをしていることが父親の難物氏にバレるとたいへんです。バレないように、サザエさん一家は協力するのですが、結局、バレてしまいます。

サザエさんたちは難物氏が甚六君を「勉強をせずにこんなことをしているとは何ごとだ！」と叱るかと思っていたのです。だが、実際には「あの演技は何だ、子ども向けの芝居でも引き受けた限りは真剣に取り組みなさい」と、自分の役割を一生懸命果たしていないことを叱りました。カツオは「うちのお父さんだったら勉強しないことを叱るのに、さすがに小説家だネエ」と言っています。

カツオがいたずらっ子から平凡教育の主張者へと変貌していったのは、作者である長谷川町子やそれを引き継いだアニメの作者たちが、平凡教育こそが日頃の暮らしの中で大切にしなければ

ならないものであることを自覚したからだろうと推察されます。

もちろん、「サザエさん」の作者たちは柳田の用語である平凡教育をはっきりとした観念としては自覚しなかったかもしれませんが。けれども、何かそのようなものが現在失われつつあり、社会的な性格であるカツオにそれを担わせるのがよいと判断をしたのでしよう。

希望的観測で言えば、地域コミュニティでも少数ながら、この平凡教育的な教育の活動が始まっています。たとえば世代間交流ということで、おじいさん・おばあさん世代が孫世代と交流する場をつくったりしています。親世代がとすれば非凡教育を言いがちなのを、おじいさん・おばあさん世代が遊びを通じてちょっとした礼儀を教えたり、ある種の人生観を示したりして、相互にけっこう楽しんでいるのです。

現在の家族は親世代と子ども世代で構成される二世代の場合が多く、ここでは非凡教育が蔓延しています。ふたたび『サザエさん』のマンガの例です。

奥さんがご主人に向かって「Ⅰ」と言葉をかける。新聞を読んでいたご主人は怒ったようにして席を立つ。つぎに奥さんは自分の子どもに向かって「ノブオちゃん、一年からずつと一番ですってヨ」と声をかける。くだんの子どもは悲しそうにうつぶく。ついで奥さんは庭にいる飼い犬に向かって、新聞に書いてある新幹線の盲導犬の記事を読みながら「マア、感心な盲導犬」と言ったので、飼い犬もココソコと犬小屋の中に逃げ込む。

④ 犬にまで言ったことが笑いになるわけですが、このような徹底した非凡教育を『サザエさん』の作者は嫌っていて、笑いに仕立てたのではないのでしょうか。

平凡教育はもともと村という地域の小さなコミュニティを基礎として確立されたという歴史的経緯があるものですから、現在でも地域コミュニティが教育を考えるときに、その効果をとくに強く発揮するように思われます。平凡教育という考え方には、人間がお互いに仲間として差別を受けなくて生きていくための知恵があるように思います。

最近、哲学者の鷺田清一さんが、Ⅱ 文章を見つめましたので、それを付言しておきましたよ。

鷺田は「学力問題って何だ？」という文章で、つぎのようにいっています。学力を問うということは、「まこと無礼だなあ」というのは、知っている人が知らない人に問うからです。「ふつう質問というのは、知らない者が知っているであろう者に懇願するようにして向けるものだ」。だが、学力問題の場では、「知っている者が知らない者に問うている」。これは相手を試しているのであって、「不信ということが前提としてある」と鷺田は言います。

こういうことを言うのは、として鷺田は例をあげます。たとえば「葉緑素以外に光合成に必要な要素を二つ問う設問がある。この問いに答えることに何の意味があるかは問うまい。学ぶ意味など学んだ後にしかわからないからだ。それよりも、この孤立した問いの無意味さに、ああまたか、と疲れるだけだろうとおもう。設問として孤立していること、いいかえれば、何のために考えるのか、答えがわかったら次にどうするかという、生活に連なる脈絡がこれらの設問にはな

い。そのような孤絶した知識は生活の場面で使用されることがなく、だから身につくことがない。知ったところで意味のない設問につきあわされるのもそれなりにしんどいことだろう」。

鷺田はこのような知識を学力という名で子どもたちに押し付ける愚を指摘しているのです。たしかに考え直すと、学校の学力という名の記憶力競争はたしてどのような意味をもつのでしょうか。

(鳥越皓之『村の社会学』より)

問 1 空らん にあてはまることばを文中より四字でぬき出しなさい。

問 2 空らん には身体の一部をあらわすことばが入ります。そのことばを漢字一字で答えなさい。

問 3 ——線①「これらをきちんとマスターしておかないと生きていくことが困難になります」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 村独自の作法や知識を身につけないと、その一員として認められる儀式に合格することができず、村人になることができないということ。
- 2 村の中で個々人が担うはずの技術や知識を身につけないと、集団での営みをさまたげてしまい、村の中でうまくいかなくなるということ。
- 3 村の存続に必要な技術や知識を身につけないと、同業者内での違いを示すことができず、村の中で自分を卓越させられないということ。
- 4 村の若者たちが共同して営む能力を身につけないと、村同士のつながりが保てなくなり、村同士に摩擦が生まれてしまうということ。

問 4 ——線②「カツオだけがキャラクターを変えています」とありますが、その理由が書かれている段落を探し、はじめの五字を答えなさい。

問5 ——線③「カツオの何を評価しているのでしょうか」とありますが、その答えとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 頭の回転が速く、咄嗟に正しい判断を下すことができる点。
- 2 悩んでいる人がいたら、手を差し伸べて助けることができる点。
- 3 特定の基準にとらわれず、柔軟な見方をする点。
- 4 社交的な性格であり、誰とでも親しく話すことができる点。

問6 空らん I にあてはまることを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 私も少しは家事を休みたいものですわ
- 2 新聞ばかり読んでいないで働いてくださいヨ
- 3 おとなりのご主人は部長におなりですつて
- 4 子どもと一緒に遊びに出掛けたいかがですか

問7 ——線④「犬にまで言ったことが笑いになる」とありますが、ここでの作者の意図はどのようなものですか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自虐
- 2 誹謗
- 3 風刺
- 4 糾弾

問8 空らん II にあてはまることを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 この平凡教育について例外的に推奨している
- 2 この平凡教育についておもしろく揶揄している
- 3 この非凡教育についておおげさに認めている
- 4 この非凡教育について愉快な批判をしている

問9 次の一文はもともと文中にあったものです。どこに入れるのがふさわしいですか。あてはまる部分の直後の五字を答えなさい。

問題は家族のほうです。

問10 次の会話文はこの文章を読んだ生徒たちのやりとりです。この会話文を読んで、後の問いに答えなさい。

生徒A…この文章はマンガ『サザエさん』を用いることで、平凡教育と非凡教育の違いをわかりやすく述べているよね。

生徒B…そうだね。本文最後の鷺田清一さんのたとえば、平凡教育についてわかりやすく述べられていると思うよ。

生徒C…でも平凡教育ってそもそも何なんだろう。集団の中で自分勝手なふるまいをしないことを求める教育ってことなのかな。

生徒D…それだけではないと思うよ。『サザエさん』のたとえば登場する伊佐坂難物さんの行動は、C君の言う平凡教育とは少し違うように感じない？

生徒E…うん、確かに作者はこの文章の中で平凡教育について明確に定義していないと思う。ただ非凡教育がこれ以上進むことを不安に感じていることは伝わってくるね。

(1) 生徒A～Eの発言の中には間違いを含む部分が一か所あります。その間違えている生徒を一人選び、記号で答えなさい。

(2) 線の考えを示すものとして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 上手は下手の二本、下手は上手の二本
- 2 和を以て貴しと為す
- 3 人の上見て我が身を思え
- 4 雨垂れ石を穿つ

2 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「ねえ信ちゃん、あの空の向うむかひに何があるか知っているかい」
屋根の上でみる空は、下でみる空とどこがちがう。

「知らん」

信夫はきつぱりとした口調で答えた。

「ふうん。三年生でも空の向こうむかひに何があるのか、わからんの」

虎雄の① 黒豆のような目がにやりと笑った。

「空の向うに行かなきゃ、わかるわけがないや」

信夫は利かん気に眉まゆをピリリとあげた。

「行かなくつても、わかつてらあ」

虎雄は下町の言葉づかいになった。

「ふん、じゃ何がある？」

「おてんとうさまがあるよ」

「なあんだ。ばかだね虎ちゃんは。おてんとうさまは空にあるんだよ」

「うそさ。空の向うだよ」

「空だよ」

「ちがう！ 空の向うだったら！」

めずらしく虎雄が強情をはった。

「お星さんや、おてんとうさまのあるところが空なんだ」

信夫は 断乎アだんことした口調でいった。

「うそだい！ ずがをかく時、家の屋根のすぐ上は空じゃないか。ここが空だよ」

虎雄は自分の腹ばいになっている屋根の上の空気を、かきまわすように腕うでを振ふった。

「あっちだよ。空は」

信夫はゆずらない。

「うそだ！ 空の向うだ」

二人はいつしか自分たちがどこにいるのか忘れていた。二人はならみ合うようにして物置の屋根の上に立っていた。

「うそだったら！」

虎雄が信夫の□。信夫は体の重心を失ってよろけた。

「ああっ！」

悲鳴は二人の口からあがった。

(しまった!!)

虎雄が思った時、もんどりうって信夫は地上に落ちていた。

しかし信夫は幸運だった。その日はトセが布団の皮をとって、古綿をござの上に一ぱいに干してあった。信夫はその上に落ちたのである。まっさかさまにころげ落ちたと思ったのに、打つたのは足首であった。

「信ちゃん、ごめんよ」

虎雄が泣きだしそんな顔をして屋根から降りてきた。

「おれはお前に落されたんじゃないぞ！ いいか！」

信夫は眉をしかめて足首をさすりながらいった。

「えっ！ なんだって？」

虎雄は信夫の言葉がわからなかった。

「お前がおれをつき落したなんて、だれにもいな！」

信夫は命令するように、口早にいった。虎雄はポカンとして信夫をみた。

② 悲鳴をきいてまずかけつけたのは六さんであった。

「坊ちやま、どうなさった」

六さんは青い顔をして立っている虎雄を ねめつけた。

「なんでもないよ。遊んでいて屋根から落ちたんだ」

「屋根から！」

六さんは叫んだ。そして いきなり虎雄のほおをいやというほど殴りつけた。

「虎！ お前だな」

虎雄はいくじなく泣き声をあげた。

「どうしたのです？」

祖母のトセだった。

「どうも、ごいんきよさま、すみません。虎の奴が……」

言いかけた六さんの言葉を信夫が 鋭くさえぎった。

「ちがう！ ぼくがひとりで落ちたんだ！」

信夫の言葉に六さんの顔がくしゃくしゃにくずれた。

「坊ちやま！」

「そんなことより怪我はありませんか」

トセは取り乱してはいなかった。

「大したことはないようですが、お医者さまにつれて行って下さい」

祖母は信夫の顔色をみて六さんにいった。あわてて六さんが信夫をおぶって近所の医者につれていった。足首の捻挫だけで骨折はなかった。それでも医者から帰って、一応布団の上にねかされる、信夫は大分つかれていた。

「大したことがなくて結構でした」

貞行が部屋にはいつてくると、トセはそういつて、入れ代わりに台所に立って行った。

貞行をみると、六さんがあわててたために額をこすりつけた。

「どうも、虎雄がとんだことを致しまして……」

虎雄もしよんぼりとうつむいていた。

「虎雄ちゃんじゃないったら！」

④ 信夫がじれた。

「いったい、どうしたというのだね」

貞行はきちんと正座したままで、おだやかに言った。

「実はこのガキが、物置の屋根から……」

「信夫をつき落したというのだね」

「はあ」

六さんは鼻に汗をかべている。

「ちがう。ぼくがひとりで落ちたんだ」

信夫がいらいらと叫んだ。信夫に年下の友だちをかばう度量のあることが嬉しかった。

「そうか。お前がひとりで落ちたのか」

「そうです。ぼく町人の子なんか屋根から落されたりするものですか」

信夫の言葉に貞行の顔色がさつと変わった。六さんはうろろろとして貞行をみた。

「信夫っ！ もう一度今の言葉を言ってみなさい」

凜とした貞行の声に信夫は一瞬ためらったが、そのきりりときかん気に結ばれた唇がはつきり

と開いた。

「ぼく、町人の子なんか……」

みなまで言わずに貞行の手が、信夫のほおを力いっぱい打った。信夫には何で父の怒りを買ったのかわからない。

「永野家は士族ですよ。町人の子とはちがいます」

祖母のトセはいつも信夫に言っていた。だから、町人の子に屋根からつき落されたなんて、口が裂けても言えなかつたのだ。信夫は父をにらんだ。

（ほめてくれてもいいのに！）

「虎雄くん。君の手を見せてほしい」

貞行は虎雄に微笑をみせた。虎雄はおどおどと汚れた小さな手を出した。

「信夫！ 虎雄君の指は何本ある？」

「五本です」

殴られたほおがまだひりひりと痛んだ。

「では、信夫の指は何本か？ 六本あるとでもいうのか」

信夫はむすつと唇をかんた。

「信夫。士族の子と町人の子とどこがちがうというのだ？ 言ってみなさい」

(ほんとうだ。どこがちがうのだろう)

言われてみると、どこがちがうのか信夫にはわからない。しかし祖母はちがうと言うのだ。

「どこがちがいます」

信夫はやはりそう思わずにはいられない。

「どこもちがってはいない。目も二つ、耳も二つだ。いいか信夫。福沢諭吉先生は^⑤天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず、とおっしゃった。わかるか、信夫」

「……………」

信夫も福沢諭吉の名前だけはよくきいていた。

「いいか。人間はみな同じなのだ。町人が士族よりいやしいわけではない。いや、むしろ、どんな理由があろうと人を殺したりした士族の方が恥はずかしい人間なのかも知れぬ」

きびしい語調だった。父がこんなきびしい人だとは、信夫はそれまで知らなかった。しかしそれよりも、

「士族の方が恥はずかしい人間かも知れぬ」

と言った言葉が□。士族はえらいと当然のように思ってきた信夫である。それは雪は白い、火は熱いということと同じように、信夫には当然のことであった。

(ほんとうに人間はみんな同じなのだろうか)

信夫は唇をきりりとかみしめて枕まくらに顔をふせていた。

「信夫。虎雄くんたちにあやまりなさい」

厳然として貞行が命じた。

「ぼく……」

信夫はまだ謝罪するほどの気持ちにはなれなかった。

「信夫あやまることができないのか。自分のいった言葉がどれほど悪いことかお前にはわからないのか！」

そういうや否や、^⑥貞行はピタリと両手をついて、おろおろしている六さんと虎雄にむかって深く頭を垂れた。そして、そのまま顔を上げることもしなかった。その父の姿は信夫の胸に深くきざまれて、一生忘れることができなかった。

(三浦綾子『塩狩峠』より)

問1 ……線ア「断乎とした」・イ「ねめつけた」と同じ意味をもつことばをそれぞれ文中から探し、解答さんの字数にあわせてぬき出しなさい。

問2 文中の空らん (二か所あります) に共通して入ることを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 頭にきた
- 2 腕を上げた
- 3 背中を押した
- 4 胸をついた

問3 次の一文はもともと文中にあったものです。どこに入れるのがふさわしいですか。あてはまる部分の直後の五字を答えなさい。

貞行は微笑して、二、三度うなずいた。

問4 ——線①「黒豆のような目がにやりと笑った」とありますが、ここから虎雄のどのような気持ちかがえますか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 年下だと思つてまともに相手にしてくれない信夫に対して反抗する気持ち。
- 2 信夫も知らない知識を自分が持っていることがわかつて得意になる気持ち。
- 3 いままで一目置いていた信夫の意外な弱点を知り失望しかかにする気持ち。
- 4 家からのちがう年上の信夫と対等に話せることに喜びをかくせない気持ち。

問5 ——線②「悲鳴をきいてまずかけつけたのは六さんであった」から——線③「いきなり虎雄のほおをいやというほど殴りつけた」までの六さんについて説明したものととして最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 信夫が屋根から落ちたことに気づきあわててかけつけてみたものの、はじめはそれが虎雄のしわざかどうか半信半疑だった。しかし信夫の姿を見て自分たちが弱い立場であることをはじめて自覚したことで、わざと虎雄にきつく当たろうとした。
- 2 信夫の悲鳴をきき、虎雄のせいで信夫に大事があったら大変だと思いかけた。さらに信夫が屋根から転落したことを知り、虎雄にその原因があることをさすると、自分たちの置かれた立場も重なって虎雄に対する怒りが強くこみあげてきた。
- 3 信夫の悲鳴をきいたものの、はじめは子どものけんかにすぎないとたかをくくつていた。しかし二人の話を聞いて事の重大さを知ると、お世話になっているトセや貞行に対する申し訳なさがわき起こり、それを虎雄に思い知らせようとしている。
- 4 信夫のようすが心配でならなかったところ、屋根から転落したこととその原因が虎雄にあったことを知り、思わずとり乱した。さらに虎雄をかばう信夫のやさしいことばに感情がつき動かされたため、やり場のない気持ちを虎雄にぶつけている。

問9 本文の登場人物のうち、(1)信夫、(2)貞行、(3)トセは、それぞれどのような人物としてえが

かれていますか。最もふさわしいものを次から一つずつ選び、それぞれ番号で答えなさい。

- 1 ふだんは温厚でやさしく、他者に対して思いやる気持ちが強い人物。
- 2 教育熱心なところがあり、そのためについ自分を見失いがちな人物。
- 3 すぐむきになるところがあり、周囲との関係をうまく築けない人物。
- 4 強情なところがあるものの、自分の考えをはつきりと表明できる人物。
- 5 立場を自覚するあまり、つつい冷淡な態度に出してしまうがちな人物。れいたん
- 6 感情的になることはあるが、だれに対しても威厳をもって接する人物。いげん
- 7 いつもはおだやかではあるが、家柄を守ることに**いえがら**ついてはきびしい人物。
- 8 冷静な発言や行動ができるものの、自分たちの体面を第一に考える人物。
- 9 信念にとらわれすぎると、他人の意見を聞き入れることのない人物。

(問題は次のページに続きます)

3 次の詩を読んで、後の問いに答えなさい。

ナワ飛びする少女 藤原 定

半円の縄が

① 天を小さく切ったとき

もう君は足許のそれを飛び

半円の輪が君の頭上を越えてき

君がまたそれを越える

たえず君をつつむ円球を形つくるために

そうして掬いとる ② 天と地の交替から

生じる 律動を 君の眼がかがやいて歌う

③ 跳躍のなかにこそ 生のよろこびがあると

少女よ

④ 額が汗ばみ 頭髪がかかるく叩いている

君を冷まし 君をなだめるように

(『距離』より)

※律動……リズム。

問1 —— 線①「天を小さく切った」とはどういうことですか。それを説明した次の文の空らん
にそれぞれ詩の中のことば二字を入れ、完成させなさい。

縄が (1) の (2) を (3) た。

問2 —— 線②「天と地の交替」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 天が地になりつつ、地が天になること。
- 2 縄が、天と地を互いちがいに通ること。
- 3 君が、天と地を順番にとんでいくこと。
- 4 天が地を掬いつつ、地が天を掬うこと。

問3 ——線③「跳躍のなかにこそ 生のよろこびがある」とはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 日々の生活の中で直面することに立ち止まることなく向かいつつけるのが生きるということであり、そこに人生のよろこびも実感されるということ。
- 2 今までに経験したことのない高みへと羽ばたくことが生きるということであり、たえず理想にむけていどむことによるこびが実感されるということ。
- 3 幸せなできごとと不幸なできごとを交互に経験しつづけるのが生きるということであり、不幸を乗り越えてこそよろこびも実感されるということ。
- 4 リズム正しく毎日を送れるよう心がけるのが生きるということであり、その中で有意義な時間を楽しむことでこそよろこびが実感されるということ。

問4 ——線④「君を冷まし 君をなだめる」とありますが、ここから作者の少女に対するどのような気持ちが読み取れますか。最もふさわしいものを次から一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 成果を上げまし、さらに勇気づける気持ち。
- 2 はやりをとがめ、空回りをいさめる気持ち。
- 3 活動力をたたえ、やさしくいたわる気持ち。
- 4 失敗をたしなめ、なぐさめはげます気持ち。

問5 この詩に見られる表現の特徴について説明した次の文の中でふさわしくないものを一つ選び、番号で答えなさい。

- 1 自由詩ではあるが、言い切らない形で各連を終わらせるなどリズムを感じさせる。
- 2 すべての連に倒置法を使い、作者の思いが強調されて伝わるよう表現されている。
- 3 縄を「輪」・「円球」と表現することで、読者が情景をイメージしやすくしている。
- 4 擬人法を使うことで、少女への思いが見える形で想像できるよう工夫されている。

4 次の各問いに答えなさい。

問1 次の各文の――線のカタカナを漢字で書きなさい。

- 1 議論がドウドウめぐりして、前に進まない。
- 2 タグいまれな作品と評価される。
- 3 先日聞いたことをネットウに置いて発言をする。
- 4 ショウガイ事件を起こして逮捕される。
- 5 大会で優勝した友人をショウサンする。

問2 次のことわざ・慣用句にはそれぞれ一か所ずつ誤っている部分があります。() 内の意味を参考にして誤っている部分を三字以内でぬき出し、正しく改めなさい。

「例」朱しゆに交われれば青くなる。(人は付き合う友達によつて良くも悪くもなること。)

「答え」青く ↓ 赤く

- 1 焼け板に水。(よどみなく、すらすらと話すようす。)
- 2 木を見て人を見ず。(細かい点に注意しすぎて大きく全体をつかまないこと。)
- 3 胃の中の蛙かわず、大海を知らず。(自分の狭せまい知識や経験にとらわれ、他に広い世界があるの
を知らないこと。)
- 4 去る鳥あとを濁にごさず。(その場からいなくなる者は、あとを見苦しくないようにしてい
べきだということ。)
- 5 先頭多くして船山に上る。(指図する人が多すぎると方針が統一できずに、かえって物事
があらぬ方向に進んでしまうこと。)

